

化石の谷

化石図鑑^{その2}

中生代



ステゴサウルス
Stegosaurus

後期ジュラ紀 (Jurassic)
(約1億6350万年前～約1億4500万年前)

背中に多数のプレート状の骨、尾に2対のスパイク状の骨を持つ植物食恐竜。
プレートの表面と内部の血管の密度が高かったらしいことから、余分な体温を放熱するのに役立ったとされている。

中生代



ティロサウルス
Tylosaurus

後期白亜紀 (Cretaceous)
(約1億50万年前～約6600万年前)

大きな頭、細長い胴体、ひれ状のあし、長い尾を持つモササウルスの仲間。恐竜ではなく、トカゲに近い海にすむ海棲爬虫類。ステーキナイフのように肉を切ることに適した歯(縁辺歯)と獲物をおさえるための丸みを帯びた歯(翼状骨歯)が顎にいくつも存在する。

中生代



アンモナイト
[ユーパキディスカス・ハラダイ]
Ammonite (Eupachydiscus haradai)

後期白亜紀 (Cretaceous)
(約1億50万年前～約6600万年前)

ユーパキディスカス・ハラダイを含むアンモナイトは約3億5000万の長い期間、海洋に広く繁栄した現生のイカ・タコに近縁な殻を持つ絶滅軟体動物。殻の大きさは直径1mmから170cmを超えるまでの様々な大きさのものがある。地層の時代決定にも用いられる。

新生代

しんせいだい

約6600万年前～現在

中生代最後の時代である白亜紀で恐竜を含む多くの生物が絶滅してしまいます。その後、「哺乳類の時代」と呼ばれる新生代に入り、ようやく我々人間も出現します。実はそれごく最近のことです。

中生代



トリケラトプス
Triceratops

後期白亜紀 (Cretaceous)
(約1億50万年前～約6600万年前)

植物食恐竜の中でも3本の角を持つ角竜類の仲間。トリケラトプスは、角竜類の中でも最大級で全長約8～9mにも及ぶ。実物は国立科学博物館にて展示しており、レイモンドという愛称で親しまれている。

中生代



ヴェロキラプトル
Velociraptor

後期白亜紀 (Cretaceous)
(約1億50万年前～約6600万年前)

全長約2mほどの小型の肉食恐竜の仲間。後ろあしに大きな鉤爪をもち、嗅覚をつかさどる脳の部分が大きく、優れた嗅覚を持っていたとされており、植物食恐竜のプロトケラトプス(角竜類)などを襲っていたと考えられている。

中生代



ティラノサウルス
Tyrannosaurus

後期白亜紀 (Cretaceous)
(約1億50万年前～約6600万年前)

バナナほどある鋭い歯と強靱な顎を持つ大型肉食恐竜の仲間。同じ時代のトリケラトプスなどの植物食恐竜をおおきく襲い、鋭い歯で骨ごとかみ砕きながら食べていたと考えられている。

新生代



ヤマトケタス
Yamatocetus

古第三紀漸新世 (Oligocene)
(約3390万年前～約2303万年前)

福岡県北九州市でほぼ完全な頭骨、頸椎、前胸椎、数本の肋骨、前あしの一部が発見されたヒゲクジラ類の仲間。今生きているヒゲクジラ類と比較して、深海潜水に十分対応していなかった。ヒゲクジラ類の初期段階、特に歯を失った段階を論じる上で重要な化石の1つ。

新生代



スミロドン
Smilodon

新第三紀鮮新世～第四紀更新世 (Pliocene-Pleistocene)
(約533万年前～約1万年前)

約15cmの大きくナイフのような歯(犬歯)を持つサーベルタイガーの仲間。この犬歯は月間6mmのスピードで成長したとされ、これは今生きているライオンの2倍に相当するとされている。

新生代



ケナガマンモス
Mammuthus

第四紀更新世 (Pleistocene)
(約25万年前～約1万年前)

高さ約3m、体長約5m、推定体重4tとされるゾウの仲間。約5mある非常に長い牙を持ち、縄張り争いや穴を掘るために使用されていたとされる。

新生代



アウストラロピテクス
Australopithecus

新第三紀鮮新世～第四紀更新世 (Pliocene-Pleistocene)
(約533万年前～約1万年前)

東アフリカを起源とし約90万年以上にわたって生存したとされる初期人類。脳の大きさは現代人の3分の1ほどとされており、サルと人間の中間のような生き物で、猿のような顔(平たい鼻、強く突き出た下あご)や、木登りに適した曲がった指と長くて強い腕を持っていた。



化石の谷

さくせいしやきゅうしゅうりつひびきなだりよくち
作成者：九州大学・理学部・地球惑星博物館講義(2021年当時)
大山 望 河野 秀晴 佐藤 正樹 八田 郁生 吉永 亘希
まつくまゆりや ないとう まお かなその み優
松隈 友哉 内藤 真生 中国 美優

本図鑑を作成するにあたり真鍋真博士(国立科学博物館)・大橋智之博士(北九州市立博物館)・御前明洋博士(北九州市立博物館)には有益なご助言をいただきました。